

老後の面倒を見てくれるのは 誰?

永井通信 ☆第22号☆

株式会社東海保険 TEL 0564-27-2533 携帯 080-6903-3880

こんにちは!東海保険の永井です。いつもお世話になっております。

今回のテーマは『老後生活資金』です。人生の最後に訪れる老後。いわば人生の精算時期でもあります。 それまでの人生でどれだけ真剣にお金と向き合って来たかでその生活は大きく様変わりをします。 リアル版「アリとキリギリス」。あなたはどちらを選択しますか?

★老後資金の面倒を見てくれるのは一体誰?

親…。兄弟…。子供…。孫…。親戚…。友人…。⇒果たしてお金の面倒まで見てくれるでしょうか? 国や自治体は財政難…。(年金にはマクロ経済スライド導入、健康保険もH26年4月以降70歳~74歳までの 自己負担が2割にアップ etc)⇒年金もどれだけもらえるか、医療費の補助もどれだけ受けられるかという状況。 じゃあ、一体誰が面倒を見てくれるの!? ⇒ まぎれもなくこれは『若い日のあなた自身』なのです。

★老後生活資金はどれだけ必要なの?

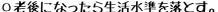
H26年総務省のデータです。世帯主が60歳以上の無職世帯の一ヶ月の収入は約20万円(年金含む)。 一ヶ月の標準生活費は約27万円で、毎月約7万円も貯蓄からの切り崩しがあります。すると年間84万円。 60歳から85歳までの25年間で2100万円。ちょうど大企業の退職金相当額くらいの赤字が出ます。

★ここからわかること

- ・退職金で住宅ローンを完済予定だと老後生活資金が捻出できなくなる恐れがある。
- ・27万円は標準生活費に過ぎないので、ゆとりある生活をしようとするとさらに貯蓄が必要になる。

★対策として

- 0計画的に貯める。
- ・人生の三大支出である教育資金、住宅資金、老後生活資金。前から順番に確実にハードルを越えていくこと。 例えば、教育資金が貯められず借り入れをすると本来なら老後生活資金を貯めなければならない時期に返済を しないといけなくなるので余計に貯められなくなります。まずは資金計画を立てることから。



・無い袖は振れないので、それなりの生活をする。※これができれば一番ラクかも。楽しいかは別ですが…。

★まとめ

どんな余生を送りたいかは人ぞれぞれ。潤沢な資金を持ち、余生を過ごすためにはなによりも若いうちからの計画が大切です。誰も強制してくれません。だからこそ将来を見据え、自らの意思で計画し実行していくことが肝要なのです。 ※本通信を今後要らない方は、お手数ですが私までお申し付けください。よろしくお願いします。

発行者プロフィール 生命係

生命保険かけこみ相談室(080-6903-3880)

名前 : 永井 教盟 (ながい のりちか)

石前 :水井 轪益 (なかい のりちか) 誕生日 :昭和54年12月23日 - 出身地:幡豆

趣味 :読書(最近メンタリストDaiGoが面白い!)

経歴 : 2008年12月、保険業界へ転職

資格 : 生保協会認定FP LCQS協会認定証券診断士

: 相続診断士 住宅ローンアドバイザー

O 休業中、健康保険から傷病手当金がもらえた。

〇休業中、健康保険から傷病手当金がもらなかった。

○会社買でも確定申告すると戻ってくるお金。

○学資保険を18年掛けて減らしてしまう。。。

〇生命保険加入時に持病を告知しなかったので支払われなかった。

そのお悩み解決できます! p(^^)q

やるか?逃げるか?どうする?



★期間で貯める?金額で貯める?

お金を貯めるにはこのどちらかしかありません。 0月的:1,000万円貯める

- ・30年で貯める⇒毎月27,777円積立
- ・20年で貯める⇒毎月41,666円積立
- ・10年で貯める⇒毎月83.333円積立

期間で貯めたほうが比較的やりやすいのかなと 思いますがどう感じましたか?

|★ゴールデンブリッジ(黄金の架け橋)

人生にはお金を貯めやすい時期があります。 DINKS(ディンクス)と呼ばれる期間が それにあたります。デュアルインカム(2人の収入) ノーキッズ(子供がいない)の頭文字を組み合わ せたものです。子供が就職したあとの期間はもちろん ですが、ご自身が結婚して子供が生まれるまでの 期間もこれに当てはまります。

逆に言うとこの期間以外ではなかなかお金が 貯まりにくい。この期間が長ければ長いほど老後 生活資金は余裕をもって積み立てできることに なります。子供が就学で大変なのに老後のための 積立なんてできないわ!という方はこの期間を 最大限に活用して頑張りましょう。

★平均寿命ランキング第一位の国:日本

H27年WHOの統計で平均寿命は男性が80歳、 女性は87歳。S39年(東京オリンピックの年)の 調査では男性67歳、女性72歳でした。およそ50年間 で10歳以上も平均寿命が伸びています。現実として 生まれる国で生きられる年数に違いがあるのです。